北海道大学大学院文学研究院　応用倫理・応用哲学研究教育センター主催

公開シンポジウム
フェスタ
国立大学 2025

「明るい谷間　吉原の娘たちのうた」（新吉原女子保険組合、1952年）カストリ書房所蔵

娼婦が語る

近世には、遊廓の遊女をはじめ、人身売買によって性売を強制される飯盛女や夜鷹などの娼婦が全国各地に生まれました。近代に入ると、性売買は多様な形態をとりながら著しく大衆化しました。その過程で、小説や映画など娼婦を描く作品も数多く制作され、娼婦は他者によってまなざされる存在となってゆきました。歴史研究の中でも、廃娼運動に焦点があてられる一方で、遊廓や私娼街を生きた当事者による作品や主体的な行動にはあまり関心が向けられてきませんでした。本シンポジウムでは、近世の遊女による「日記」、元娼妓による小説、戦後の「パンパン」の自助組織をめぐる資料などを手がかりとして、他者化されてきた娼婦の語りに耳を傾けます。

講演

遊女の「日記」を読む ―人は、いつ、何を、なぜ書こうと思うのか―
横山 百合子（よこやま ゆりこ）国立歴史民俗博物館名誉教授

遊廓の「語り手」からひとりの創作者へ
山家 悠平（やんべ ゆうへい）京都芸術大学・佛教大学等非常勤講師

わたしたちの声を聞け！ ―「パンパン」たちの「白菊会」・「白鳥会」
平井 和子（ひらい かずこ）一橋大学ジェンダー社会科学研究センター客員研究員

コメンテーター
長谷川 貴彦（はせがわ たかひこ）
北海道大学大学院文学研究院教授

司会
水溜 真由美（みずたまり まゆみ）
北海道大学大学院文学研究院教授
応用倫理・応用哲学研究教育センター 運営委員

2025
11/29（土）
13:30～17:00（開場13:00）

参加無料

北海道大学
文系共同講義棟 6番教室
札幌市北区北10条西7丁目

対面とオンラインにて開催します。
オンライン参加のみ事前申込が必要です。
リンクまたはQRコードからお申込みください。

オンライン定員：100名
申込締切：11月27日㈭（17時）迄

申込フォーム
https://forms.gle/UKL6UBQDP7ZVbtTV6

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY
CAEP HOKKAIDO UNIVERSITY

お問い合わせ
Email: caep@let.hokudai.ac.jp
URL: http://caep-hu.sakura.ne.jp/
X : @caep_hu

公開シンポジウム
フェスタ
国立大学 2025

娼婦が語る

講演要旨

遊女の「日記」を読む ―人は、いつ、何を、なぜ書こうと思うのか―

嘉永2（1849）年8月、江戸新吉原遊廓の遊女たち16人が、自らの店に放火し、直ちに自首して、経営者の非道を訴えるという事件が起きた。このシンポジウムでは、江戸でも評判になったこの事件の裁判資料「梅本記」から、遊女たちの証言や調書、何人かの遊女たちが書き残した「日記」を紹介し、多くの遊女たちが、何を、なぜ「日記」に綴ろうとしたのかを考えてみたい。それは、人にとって書くという行為がどのような意味をもつのか、また、江戸時代の遊廓の実像はいかなるものだったのかを明らかにすることにもなろう。

横山 百合子　専門は日本近世史、ジェンダー史。主著：『明治維新と近世身分制の解体』（山川出版社、2005年）、「幕末維新期の社会と性売買の変容」明治維新史学会編『講座明治維新9 明治維新と女性』（有志舎、2015年）、『江戸東京の明治維新』（岩波新書、2018年）、「遊女の「日記」を読む―嘉永二年梅本屋佐吉抱え遊女付け火一件をめぐって」長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』（岩波書店、2020年）ほか

遊廓の「語り手」からひとりの創作者へ

遊廓の改善という世論が高揚した1926年、森光子と松村喬子という女性が遊廓から逃走し、労働運動家の支援の下で自由廃業を遂げた。少女時代から読書に親しんでいた森は二冊の著作を発表し、松村も遊廓を舞台とする自伝的小説を発表した。これまで両者は苛酷な経験の証言者として言及されることが多かったが、実はその後の人生の中で、遊廓とは主題の異なる作品を数編発表している。本報告では、二人の遊廓後の生と作品に焦点をあて、「元娼妓」というアイデンティティの変化と、作品を通して何を表現しようとしていたのか探りたい。

山家 悠平　専門は日本近代女性史。遊廓の中の女性たちによる労働運動や手記の研究。著書に『遊廓のストライキ―女性たちの二十世紀・序説』（共和国）、『生き延びるための女性史―遊廓に響く<声>をたどって』（青土社）があり、『地獄の反逆者―松村喬子遊廓関係作品集』（琥珀書房）には編集・解説でかかわっている。青波杏名義で『楊花の歌』『日月潭の朱い花』（ともに集英社）、『花咲く街の少女たち』（講談社）等の著作もある。

わたしたちの声を聞け！ ―「パンパン」たちの「白菊会」・「白鳥会」

占領下、街頭に立って性売買をした「パンパン」たちは、環境浄化運動や売春防止法制定過程で、「転落女性」として「保護・更生」の対象とされてきた。男性の描く小説や映画、流行歌によってさまざまに表象され他者化されてきた。常に占領軍と日本警察による「狩り込み」におびえ、社会から侮蔑のまなざしを受けながらも、自分たちの声を発する回路を持たなかった「パンパン」たちが懸命につくった自助組織－新宿の「白菊会」、有楽町の「白鳥会」を紹介し、そこから浮かび上がってくる当事者の声を聞く機会としたい。

平井 和子　1955年広島市生まれ。専門は、近現代日本女性史・ジェンダー史（社会学博士）。主著：『日本占領とジェンダー―米軍・売買春と日本女性たち』（有志舎、2014年。山川菊栄賞受賞）、上野千鶴子・蘭信三・平井和子編著『戦争と性暴力の比較史へ向けて』（岩波書店、2018年）、『占領下の女性たち―日本と満洲の性暴力・性売買・〝親密な交際〟』（岩波書店、2023年。女性史　青山なを賞受賞）

■コメンテーター
長谷川 貴彦
北海道大学大学院文学研究院教授
近現代イギリス史、歴史理論

■企画・司会
水溜 真由美
北海道大学大学院文学研究院教授
応用倫理・応用哲学研究教育センター
運営委員
近代日本文学・思想史

北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY
CAEP HOKKAIDO UNIVERSITY
お問い合わせ
Email: caep@let.hokudai.ac.jp
URL: http://caep-hu.sakura.ne.jp/
X : @caep_hu